



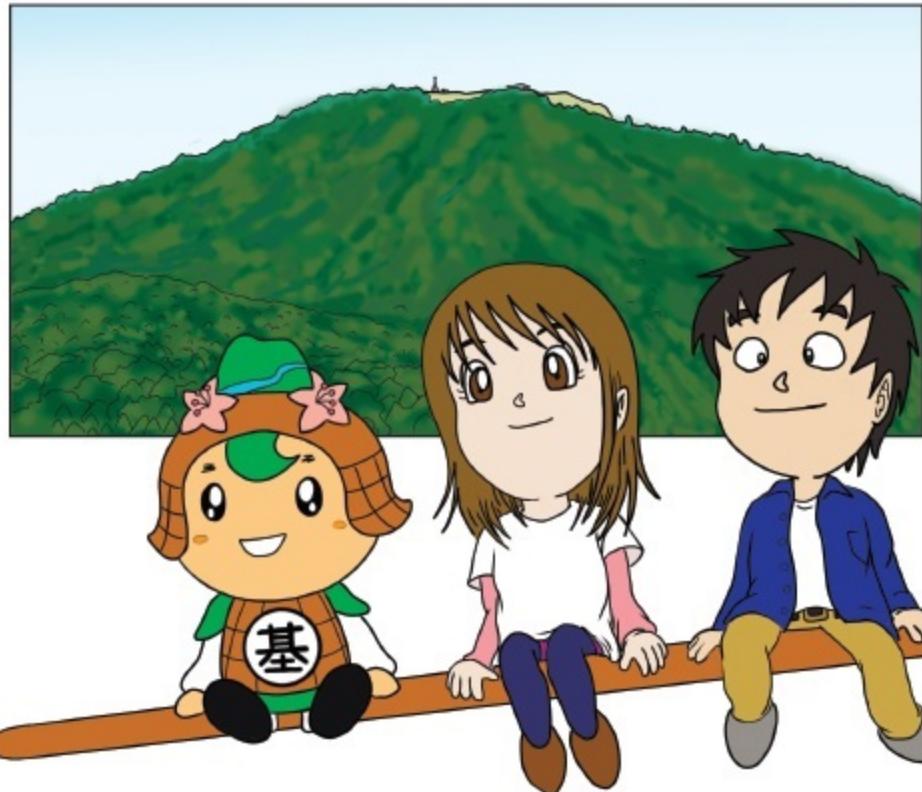
はっけん

れきし

発見! きやまの歴史1

きいじょう

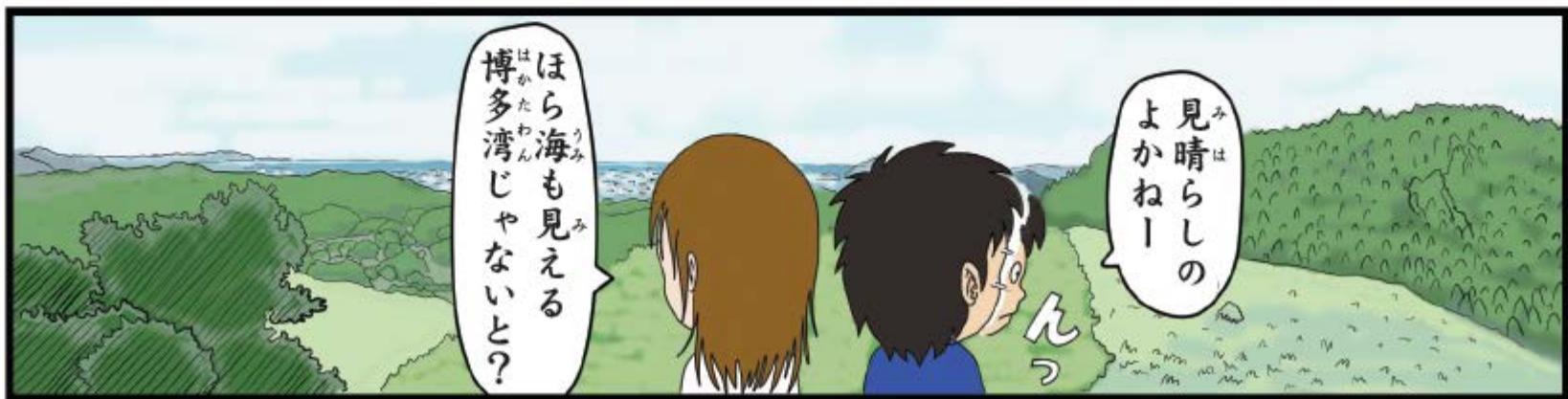
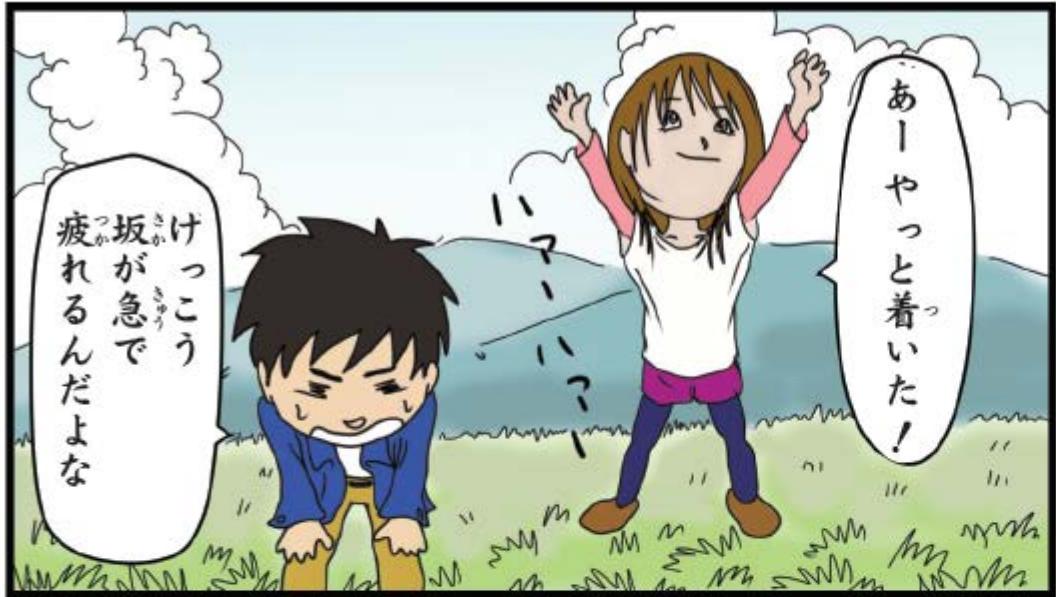
基肄城のヒミツ

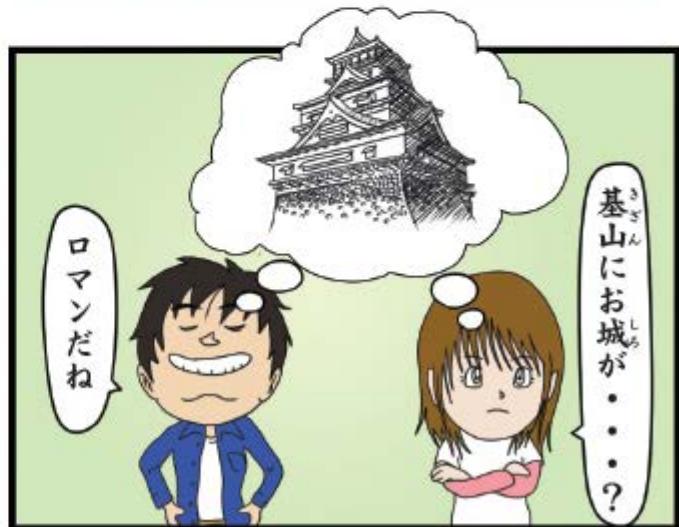


まんが:くぼやま あきら・ゆうこ



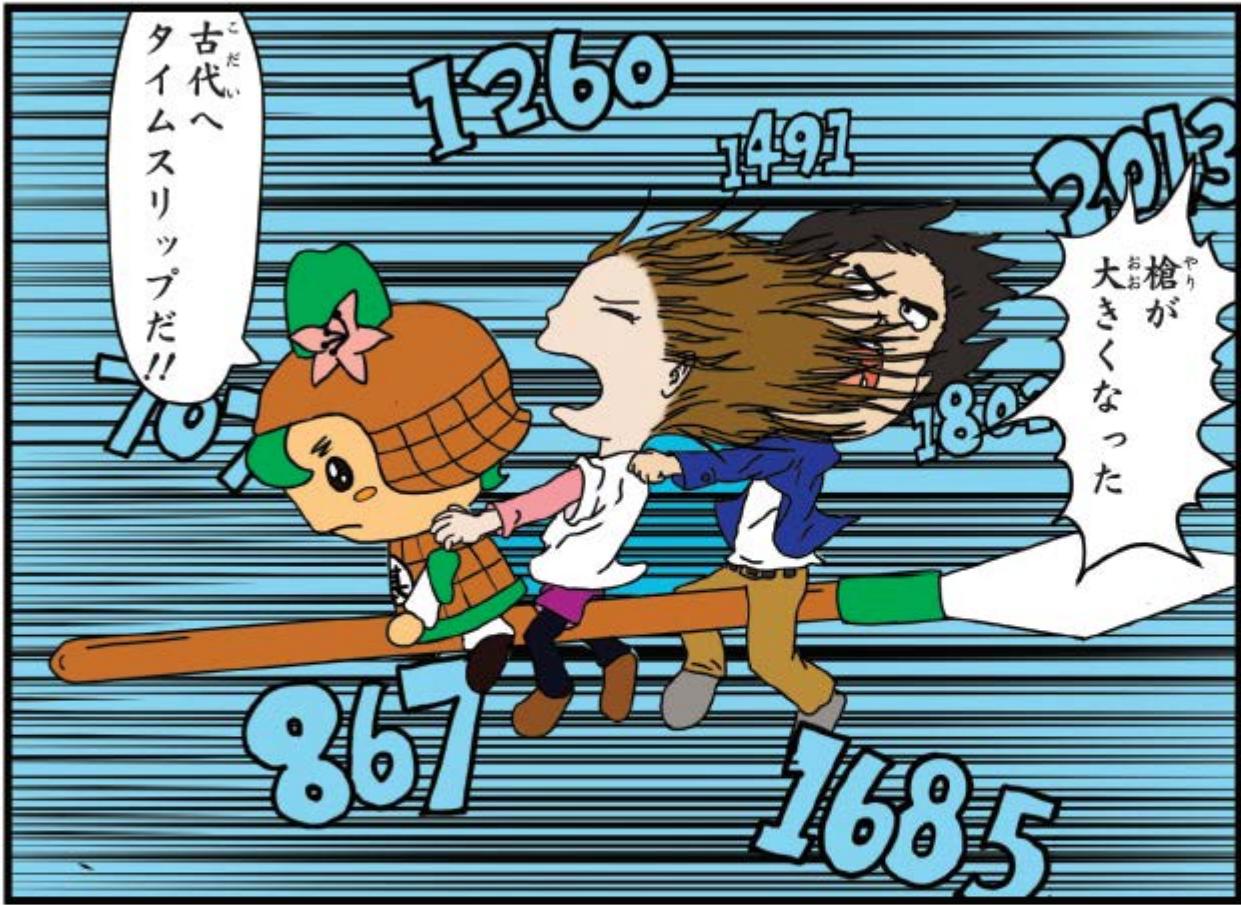










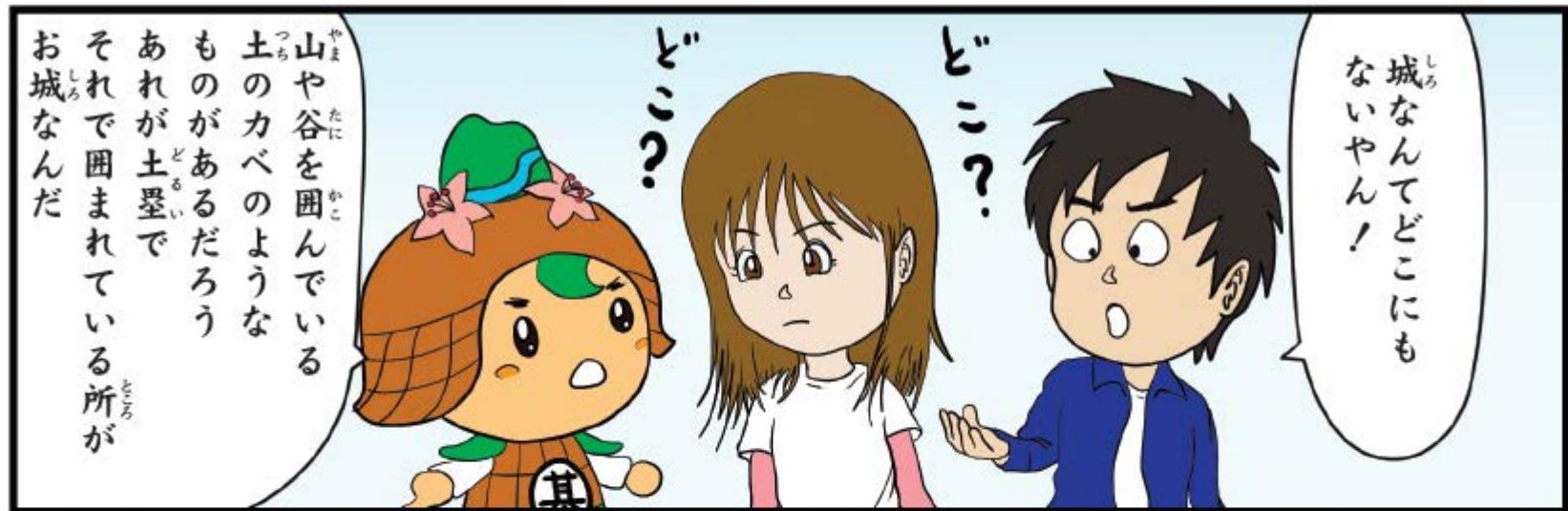




ここは？

古代の基山
あれが基肄城だよ





敵の船



博多湾

敵だー!!

基肄城

大野城

大宰府

知らせないと
いけないんだ
大宰府に

敵の海を渡つてくる
烽火を見つけたら
火を上げて

有明海

敵の船



とうきょう
こっかいぎじどう
ようなものがあ
あつたってこと？



うん
その通り
その大宰府を
守るために
基肄城を
造つてるんだ



でも海から敵が
来るつて言うけど
一体何があつたの？

今の日本じゃ
考えられないし

とてもいい質問だね
それじゃあ話そう
1350年前の
基山のことを



■コラム1

あすか じだい
飛鳥という時代（国づくりへの道1）
げんだい やくしょ しく こつかせいでん
現代の役所の仕組み（国家制度）の原点がつくられはじめた時代が、飛鳥時代といえます。

せいれき すいこ うまやどのみこ しょうとくたいし かんい
西暦 603(推古 11) 年にはじまる、厩戸皇子（後の聖徳太子）が行った冠位
じゅうにかいせい けんぽうじゅうななじょう せいてい こころ ちえん けつえん
十二階制や憲法十七条の制定といった様々な試みは、それまでの地縁・血縁によつ
て上下の関係を表現していた仕組みを大きく変え、冠位を与えた世の中を動かす規
そく あんてい せいじ
則をつくることで、人が変わろうとも、安定した政治が行えるような仕組みをつ
くることを目指していました。

あらそ できごと おおきみ くらい てんのう ねら
一方で、冠位を争う出来事が生じ、大王の位（後の天皇の位）を狙う様々な政
うず そがほんそうけ いなめ うまこ えみし いるか なかのおお
治的争いの渦が巻き起こります。蘇我本宗家（稻目・馬子・蝦夷・入鹿）と中大
えのみこ たいか がん
兄皇子らの争いとして知られる大化元（645）年におきた乙巳（いっし）の変（大
かいしん かいしん
化の革新）は、まさに大王の位を巡る蘇我本宗家が支援する古人大兄皇子（ふる
ひとのおおえのみこ、中大兄の異母兄）と中大兄皇子の伯父である輕皇子（かる
のみこ、後の孝徳天皇）との、決死の権力争いでした。

時代	西暦	元号年	記事	記載文書
飛鳥時代	536	宣化元	筑紫国那津口に官家を造り、河内・尾張・伊賀及び、筑肥豊三国の屯倉の穀を運び、非常に備ふ。	日本書紀
	593	推古元	厩戸皇子（聖徳太子）、皇太子となり摂政となる。	日本書紀
	603	推古十一	冠位十二階を制定。	日本書紀
	604	推古十二	聖徳太子、憲法十七条を制定。	日本書紀
	607	推古十五	小野妹子らを隋に派遣（遣隋使）	日本書紀
	618	推古二十六	隋滅亡。李淵（高祖）、唐を建国。唐、中国を統一する。	日本書紀
	630	欽明二	犬上御田鍬らを唐に派遣（第一次遣唐使）。	日本書紀
	643	皇極二	筑紫太宰、百濟王の子魁師が調使とともに来朝することを奏上する。筑紫太宰、高句麗が使者を派遣して来朝することを奏上する。	日本書紀
	645	大化元	中大兄・中臣鎌足ら、蘇我入鹿を殺す【乙巳の変 大化の革新】。	日本書紀



「太宰府」と「大宰府」のちがいを知ってる？

今は「太」だね。基肄城ができた頃は、「大」が使われていたんだ。

時代は飛鳥時代
645年の
大化の改新から
10年ほど経った頃と

言えばピンとくるかな？

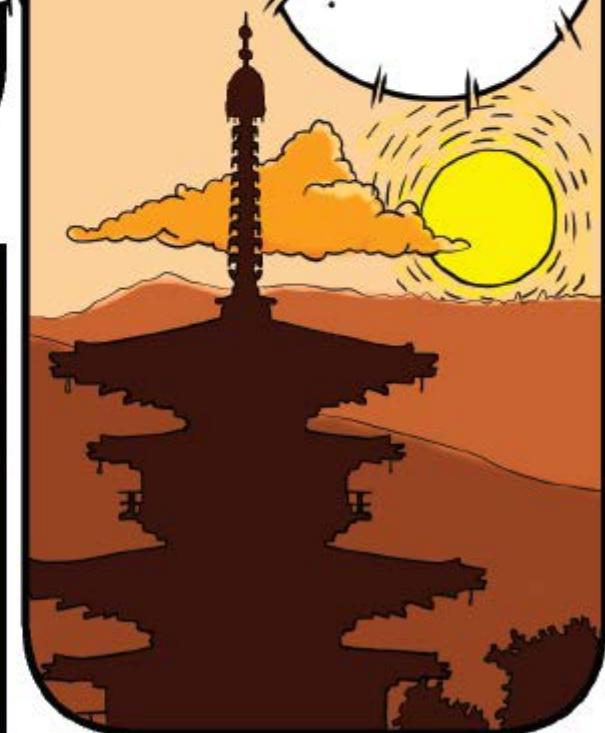
大化の改新は
知ってる！
歴史の授業に
でてきたけん

なかのおえのおうじ
中大兄皇子たちが
勝手な振る舞いをして
蘇我入鹿、蝦夷親子を
滅ぼした事件だったよね



おれ中臣鎌足を
覚えるのは難しいけん
「生ゴミのかたまり」で
覚えてるっちゃん

そうそう
中臣鎌足も
でてきたよね



それにしても
中国はでかい

唐

あつ！韓國も見える
こうして見たら
博多から近いね

高句麗

新羅

地図どおりの
形だねー

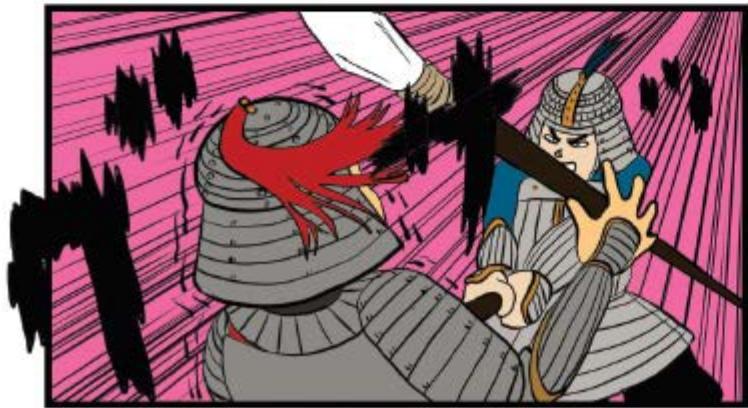
倭

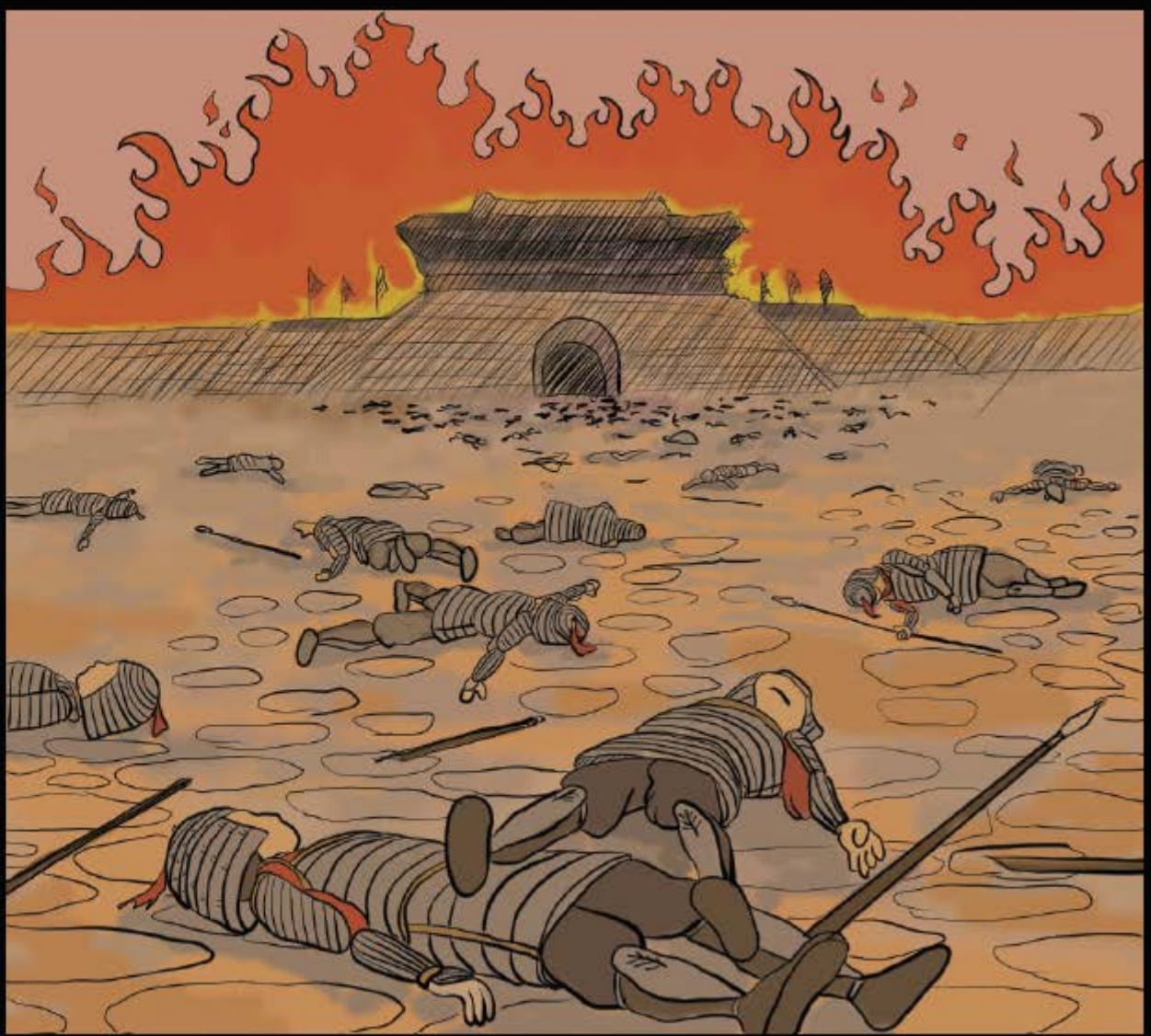
もうちょっと
高く上がつてみるよ

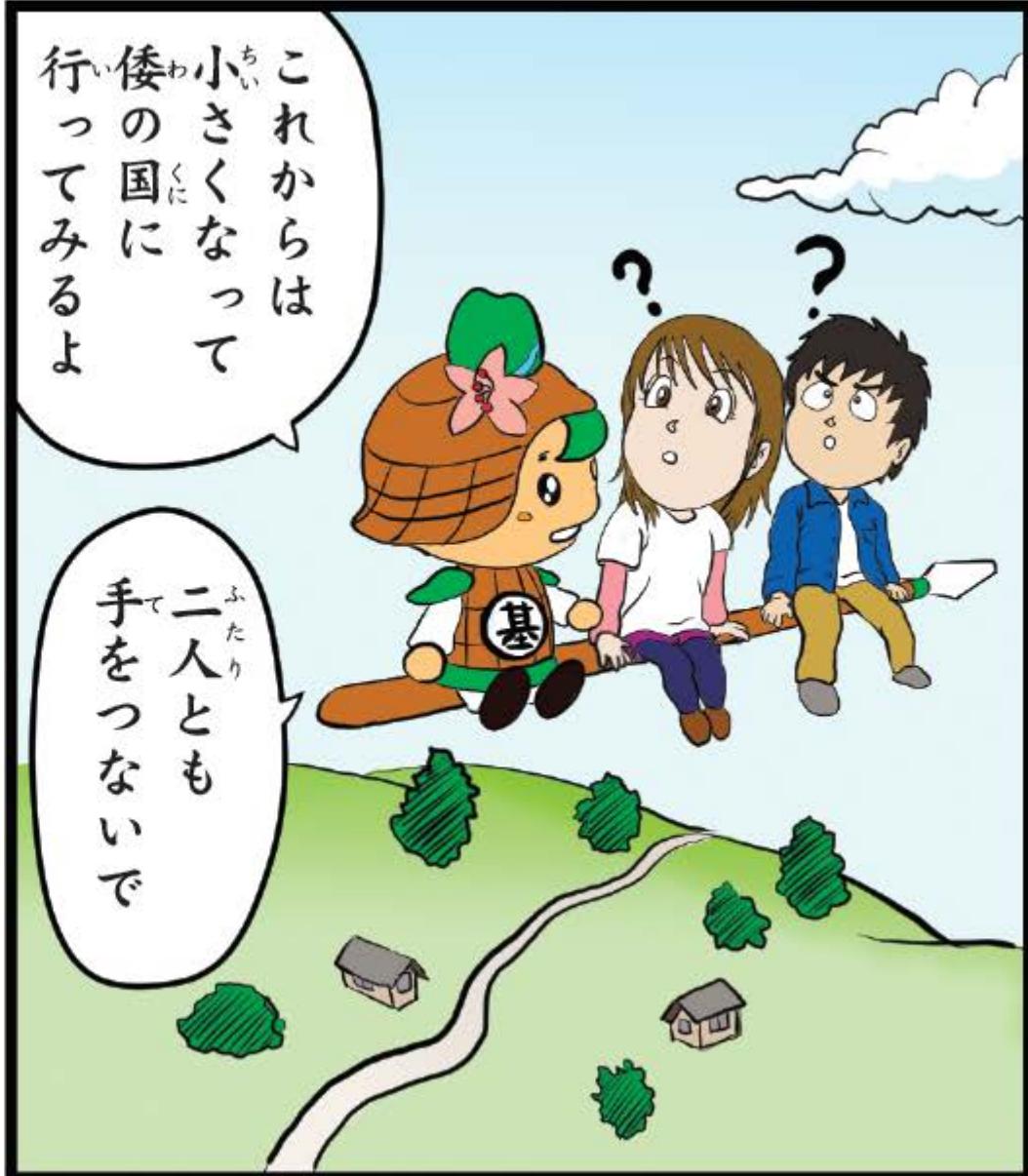






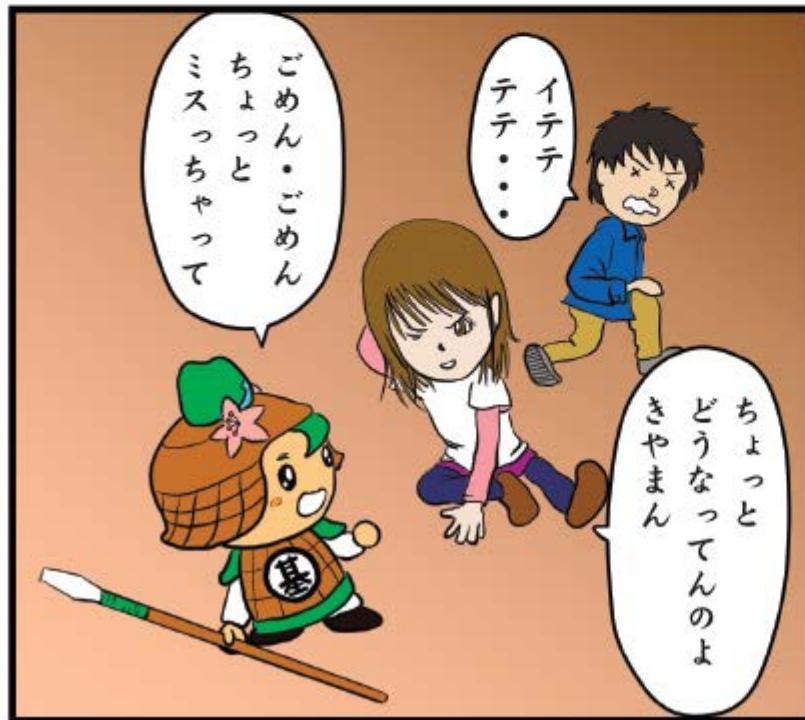
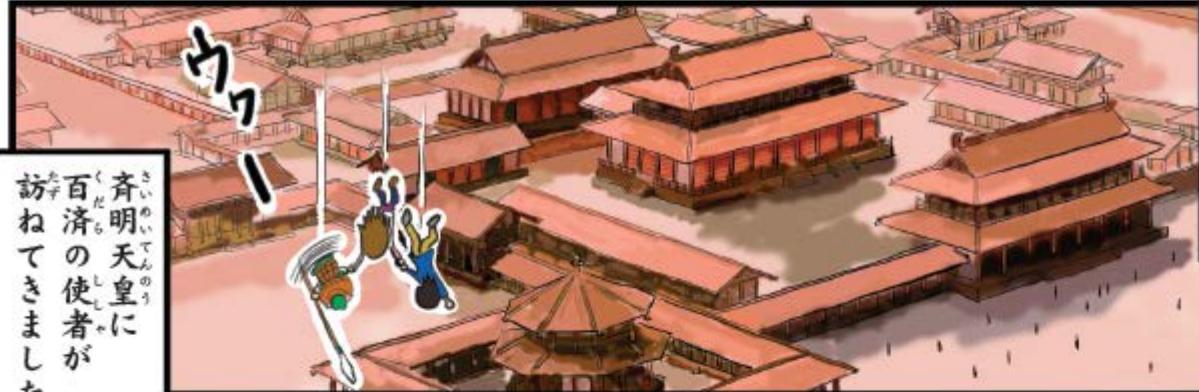


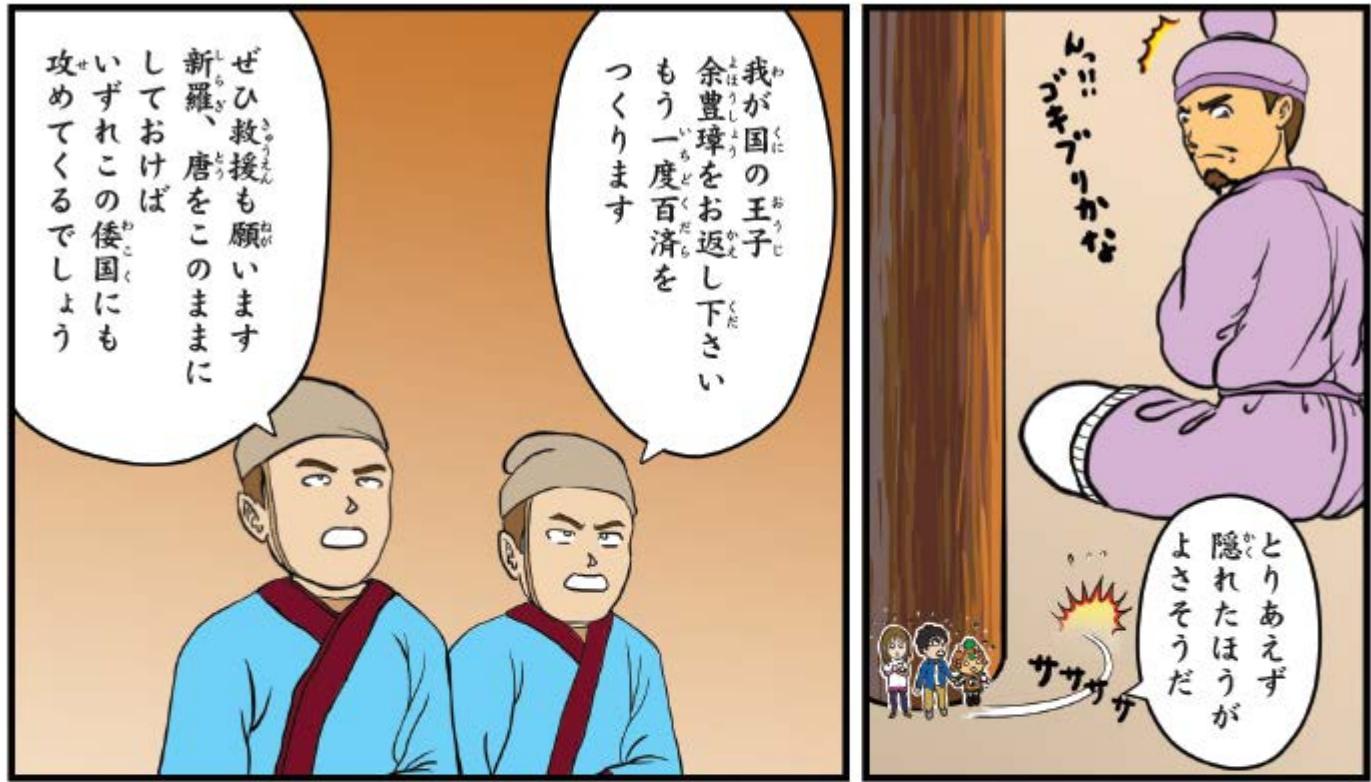




— 660年 —

ところかわつて
ここは難波宮







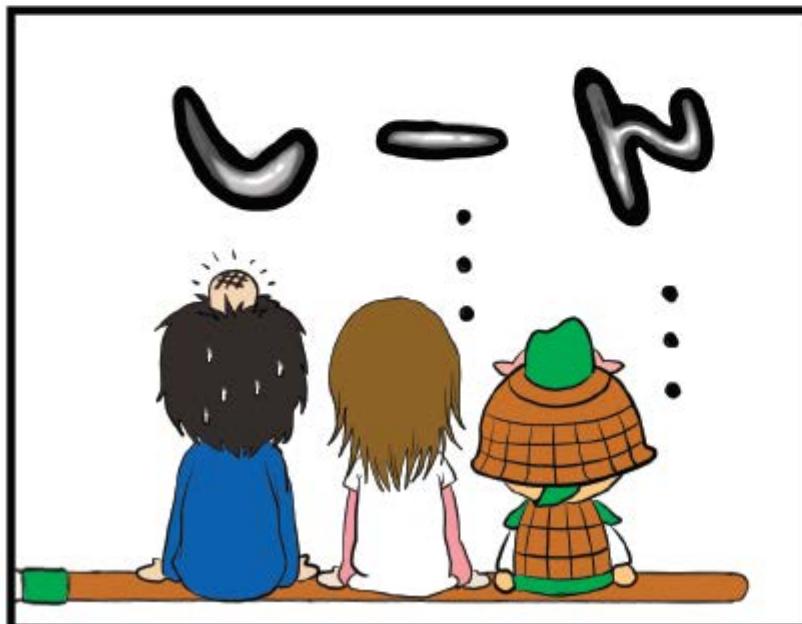
博多

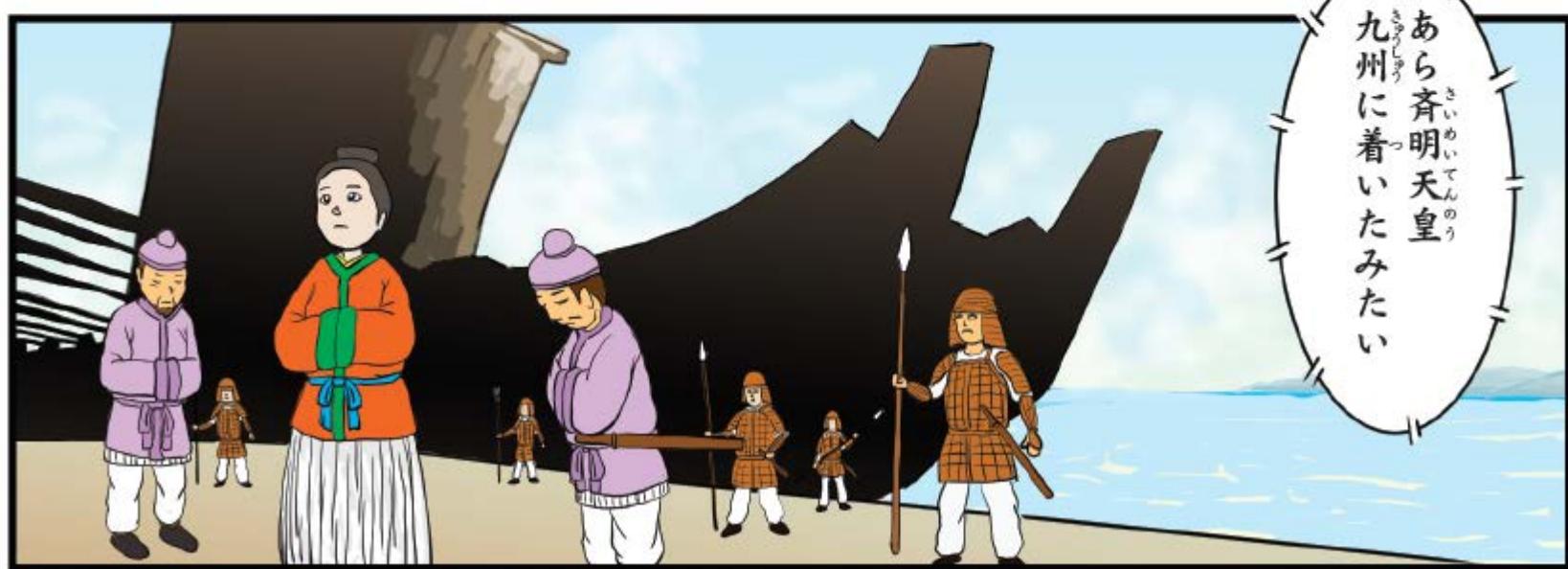
そつかー
百濟に行くには
九州からが
一番近いもんねー

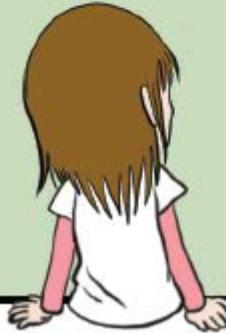
今は
齊明天皇自ら
前線基地の
九州に向かつてゐるんだ

難波

今の大坂市難波

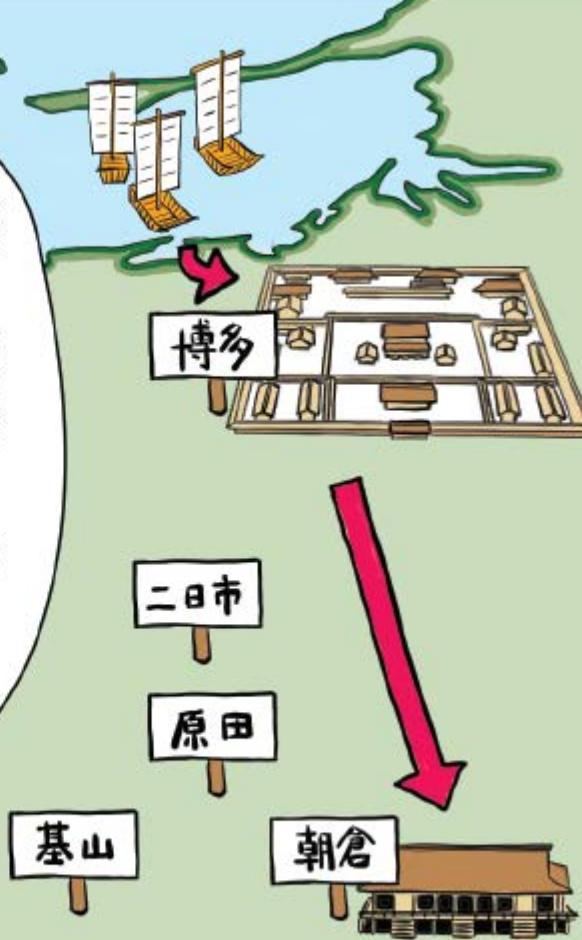


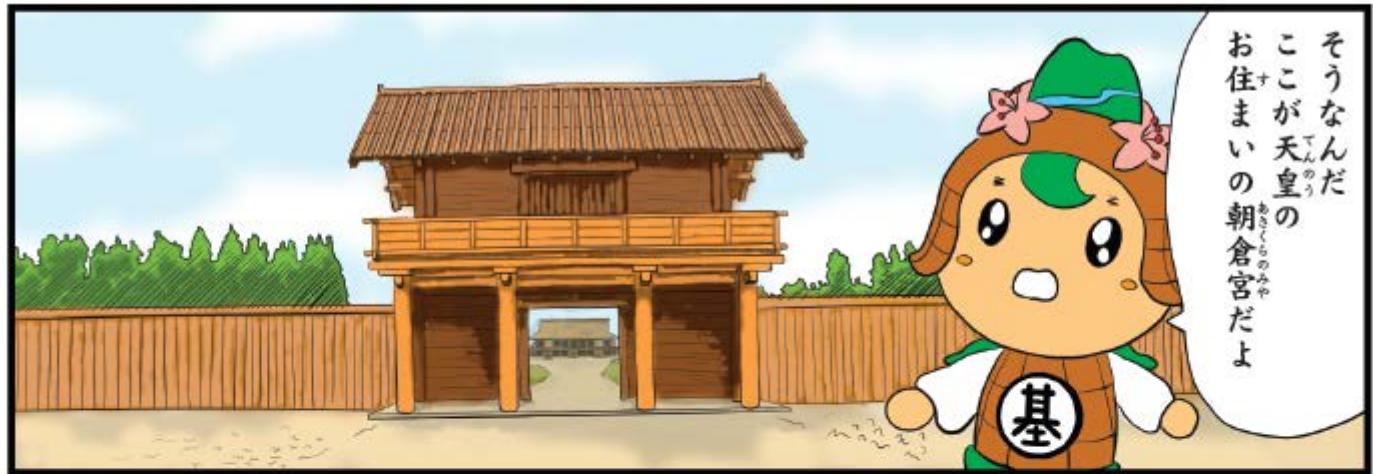


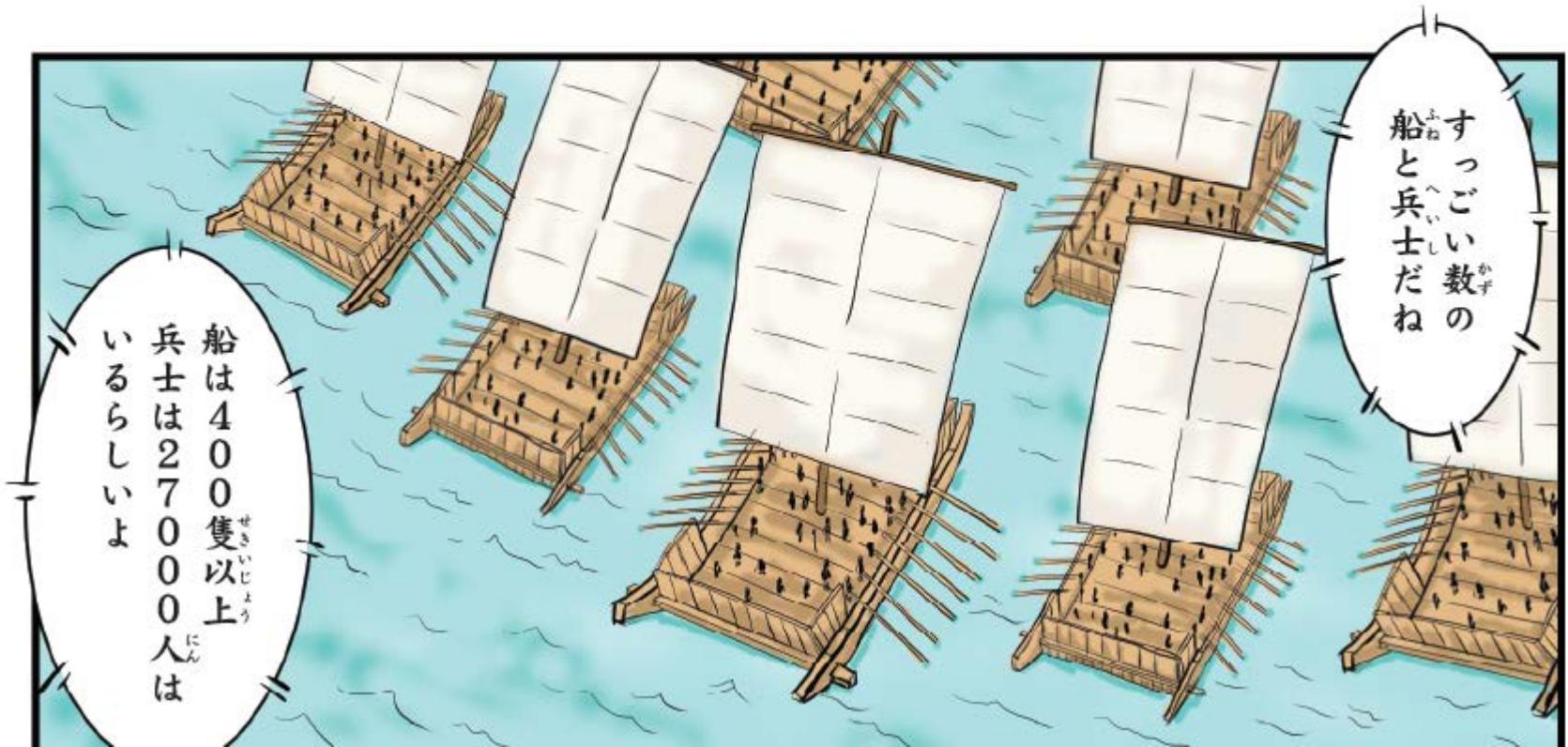


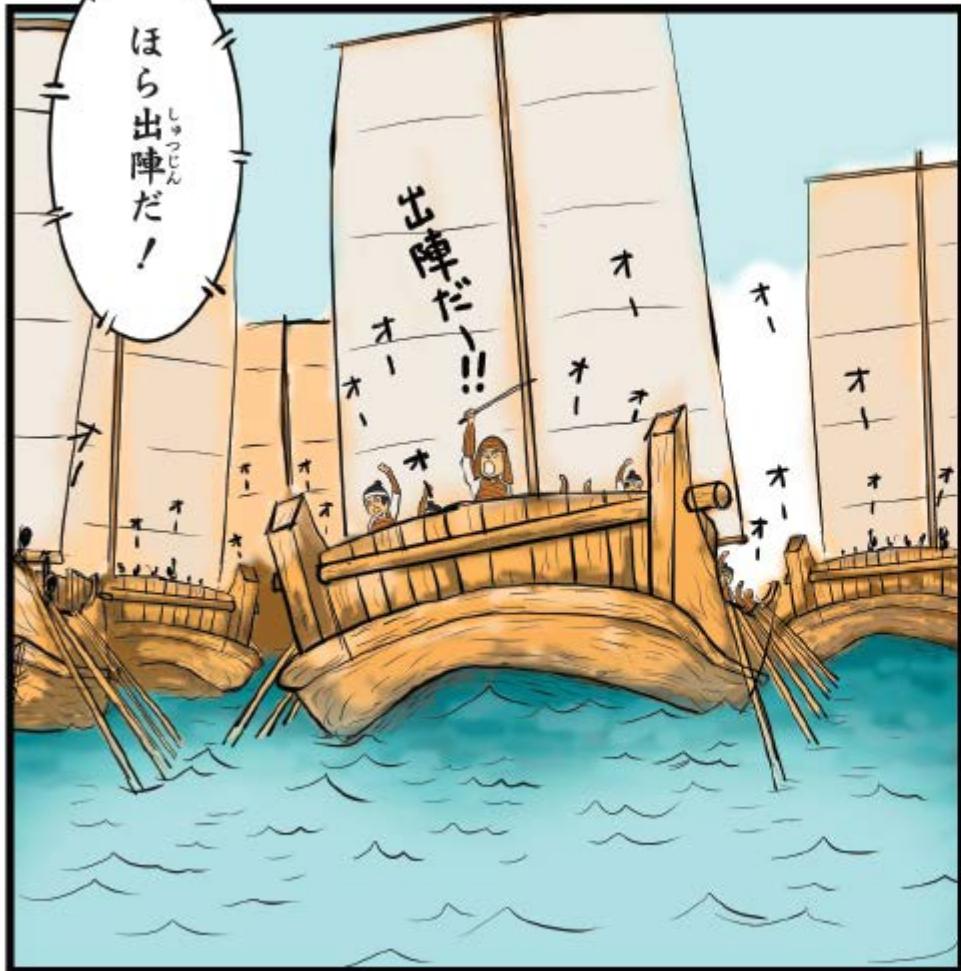
本二朝倉市立派な二日市や原田を越えて
朝倉市あたりかしら
立派なお家に入つていくわ

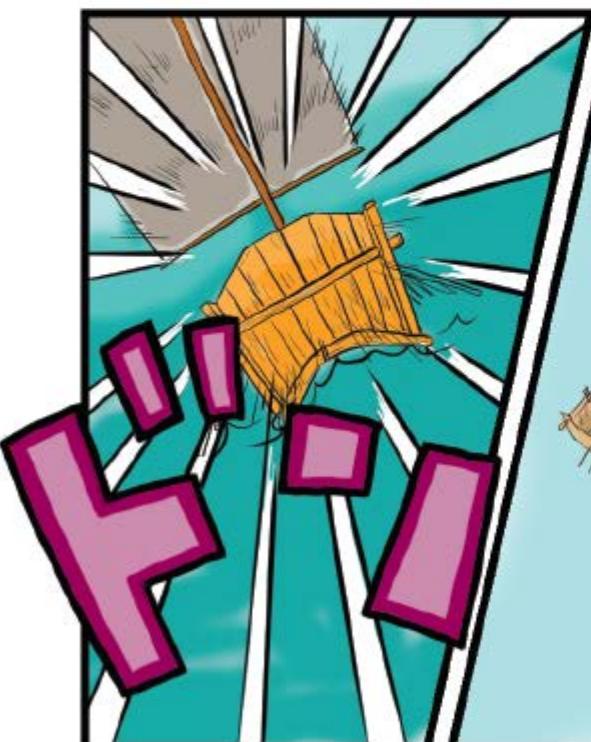
博多の海岸近くに造った
前線基地「長津宮」から
移動していくだろう

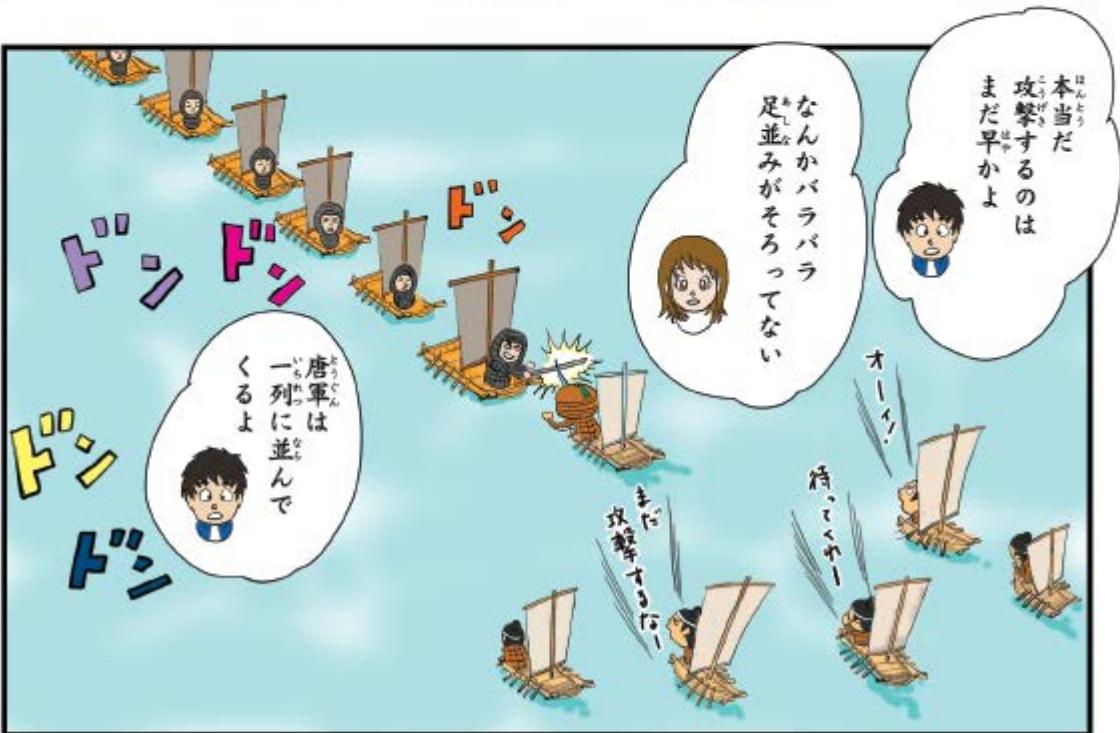






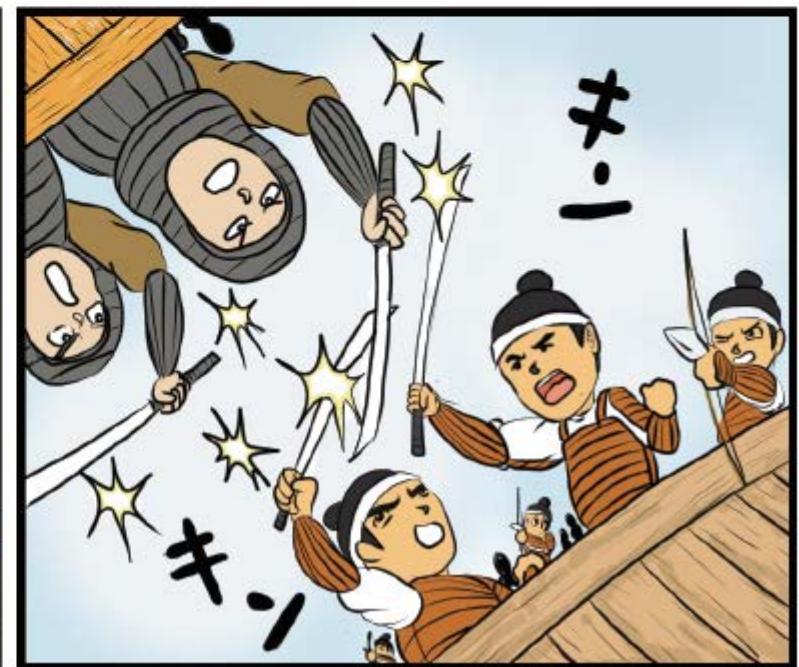






唐軍の
合図の音だ
あの音で隊列を
変えている





全滅



■コラム2

はくすきのえ たたか やぶ
白村江の戦いに敗れて（国づくりへの道2）

くだら わこく ゆうこうこく ちょうせんはんとう とう こうりゅう
 百濟の国は、倭国（当時の日本）の友好国であり、朝鮮半島や唐との交流のためには大切な国でしたが、660年に唐・新羅によって滅ぼされました。これ以降、倭国は、百濟という国の再興に協力し、多くの兵士を朝鮮半島へ派遣していきます。しかし、663年の白村江の戦いで大敗を期してしまい、百濟の再興ができなくなってしまいました。そればかりではなく、今度は唐・新羅が倭国へ攻めてくるかも知れないという危険な状態となり、それに備えることが必要になったのです。

倭国を守るために整備は、朝鮮半島に近い北部九州から急ピッチで進められます。まず、白村江の戦いの翌年である664年に對馬・壱岐・筑紫國（九州の北半部）に防人（兵士）を派遣するとともに、緊急連絡施設である烽火を設置し、さらに博多湾から大宰府への敵の進軍を防ぐために水城を築きました。そして665年には長門（山口県）に一つの城と大野城・基肄城を築いたのです。その後も玄海灘から瀬戸内海を通り、倭国を中心とする畿内へのルートに沿って、防衛のための古代山城が次々に整備されていきました。

時代	西暦	元号年	記事	記載文書
飛鳥時代	661	齊明天皇 天智二	齊明天皇、筑紫大津に至る。 齊明天皇、朝倉橘廣庭宮に遷居する。	日本書紀 日本書紀
	663	天智三	唐・新羅の水軍と韓半島（白村江）において戦い、大敗する。 【白村江の戦い（百濟の役）】	日本書紀
	664	天智四	是歳、對馬嶋・壱岐嶋・筑紫國等に防人・烽とを置き、筑紫に水城を築く。 5月17日、唐の百濟鎮將劉仁願の使郭務悰等、對馬を経由し、筑紫に至る。采女通信使を派遣して、郭務悰を別館に召喚する。 12月12日、郭務悰ら、帰国する。日本國鎮西大將軍牒を授ける。	日本書紀 日本書紀・日本紀略・善隣國宝記
	665	天智七	達率憶禮福留・同四比福夫をして、筑紫に大野城・櫟城（基肄城）を築かせる。	日本書紀
	668		高句麗、唐・新羅軍に滅ぼされる。 新羅、金東嚴等を倭に遣して、調を進る。	日本書紀
			対百濟支援 国土防衛意識高揚 天智天皇、觀世音寺建立を発願	

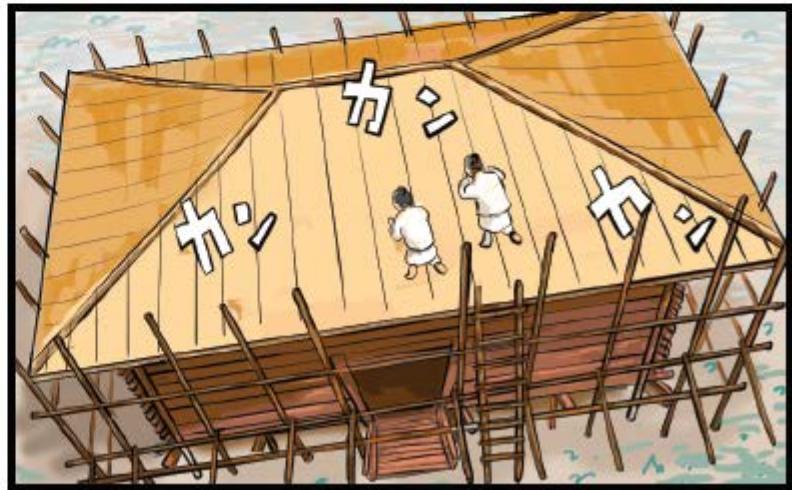
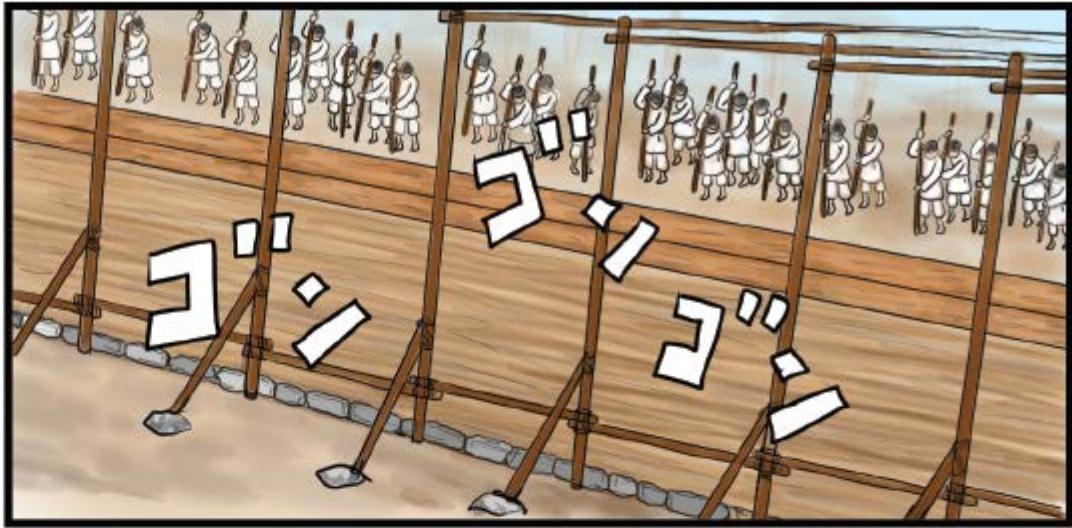
九州
ながつちのくわ

長津宮
ながつちのみや







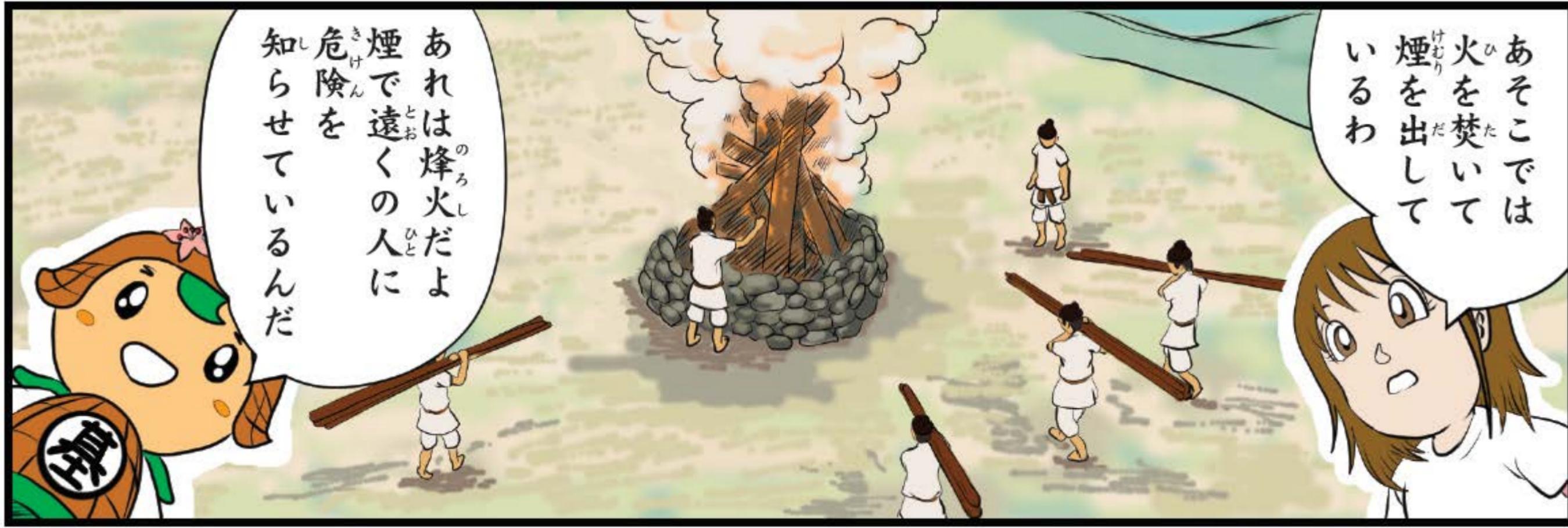


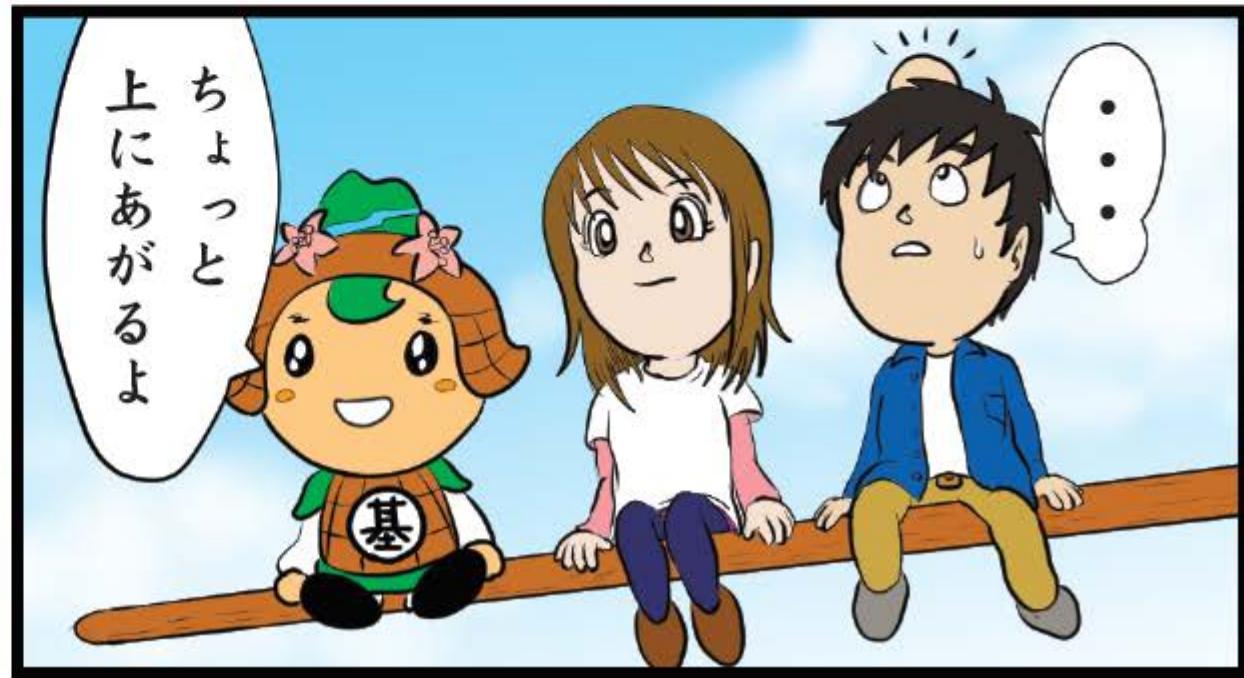


水門だね

石を積んで
水を通す
川水も
つていて
造っている





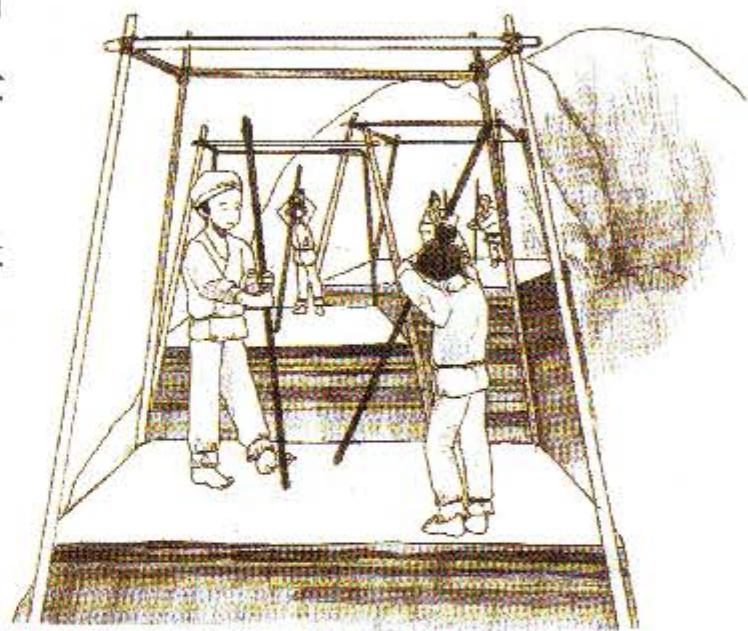


■コラム3

●版築工法（はんちくこうほう）

土を層状に積み重ねることで、地面や壁などを固くつくりあげる方法です。そのため、断面が層状になっていることが特徴のひとつです。

基肄城跡の土壘（城壁）や、南（有明海）から来る敵を食い止めるためにつくられたと考えられる関屋土壘などもこの版築方法で作られています。



●情報を伝える

○駅路（えきろ）

中央と地方の間で情報を伝えるためにつくられ

た古代の道路です。駅路には約30里（約16km）ごとに、馬、食料、宿泊の場所などを提供するための「駅家」を設置するきまりがありました。基山町内には、「基肄駅」と呼ばれる駅家が位置すると考えられており、割田や城戸などに推定する説があります。

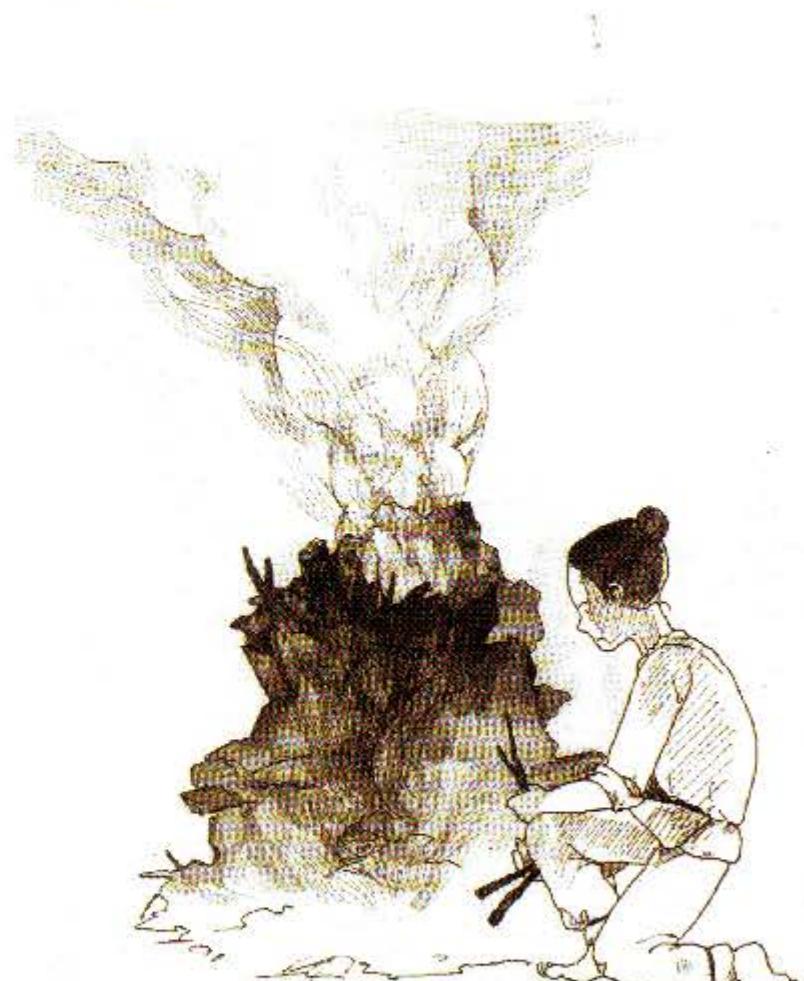
○烽火（のろし・とぶひ）

火や煙を使って、遠くにいる人にいちばんやすく情報や合図などを伝える通信方法です。基肄城がつくられた頃には、昼は煙で夜は火で合図を送るといったきまりがあったようです。

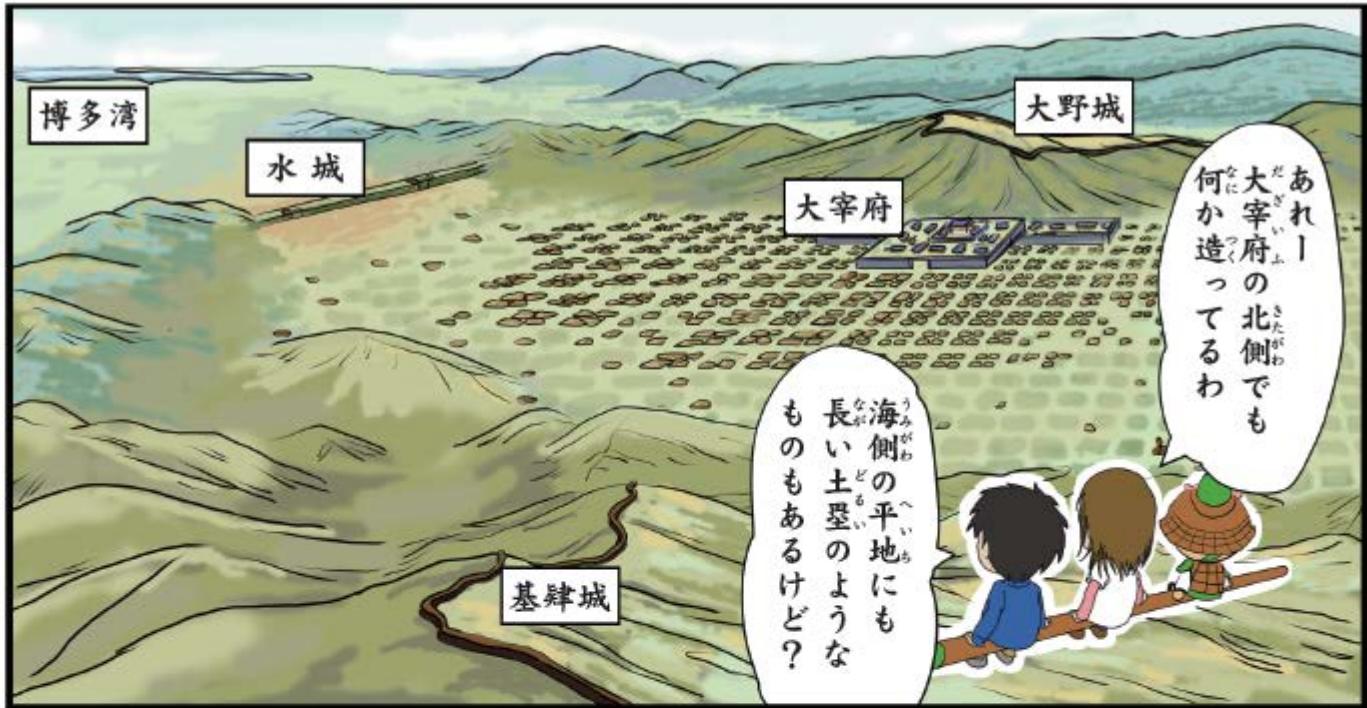
基肄城がつくられた頃の文献では、「烽火」という字が使われていましたが、今では「狼煙」と書くことがあります。これは、のちにオオカミ（狼）の糞をまぜて焼くことで煙をだしていたことに由来するといわれています。

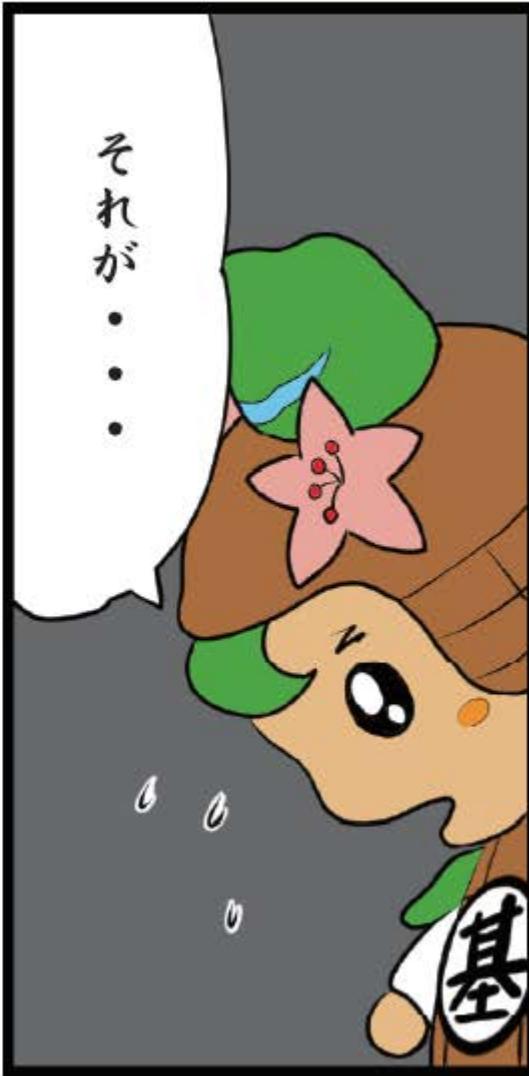
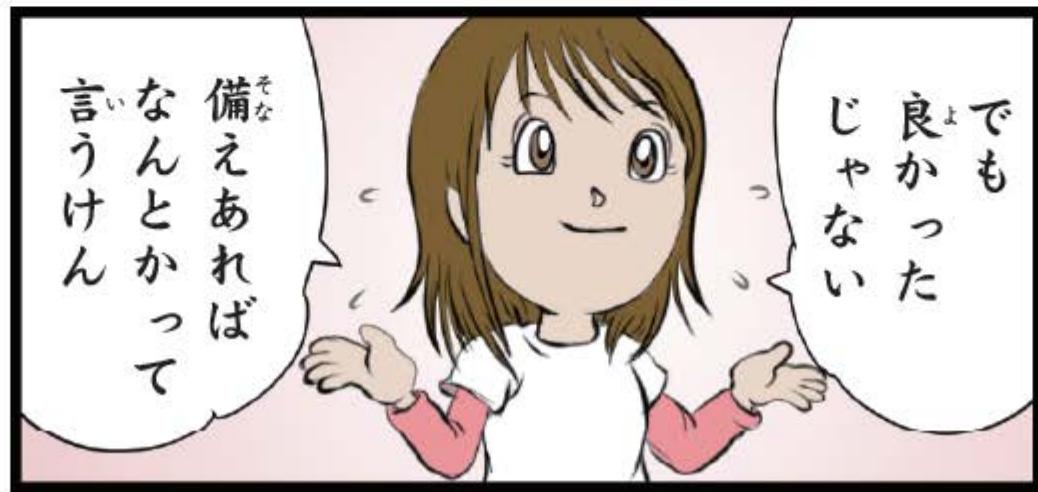
基肄城跡のなかでも、場所は確かではありませんが、のろしをあげた場所があったと思われます。

■版築工法のイメージ



■烽火のイメージ







なんてこつたー

じゃあ

こんなに苦労して

造んなくとも

よかつた

じゃないかー

それでも造り
続けたんだ
ここだけじゃないよ
本州や四国にも
次々と山城を
造ったんだ

大丈夫?

轟となりすが

トサ



ひとつは
いつ来るかは
わからな
いけど
海を渡つ
てくるかも
しれない
敵との
戦いに備
えたのだと
思うよ

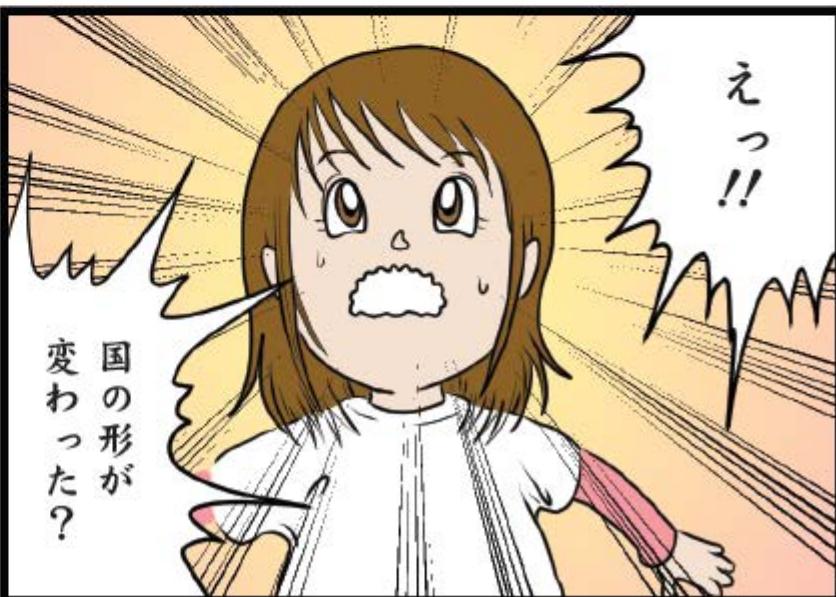
でもどうして?
城を造る意味は
なくなつたん
じゃないの?



やまとおうけん
大和王權の
すごさを見せたかった
のかもしれないね

もうひとつは
まだまだ支配下に
置くことができて
豪族たちに

いよ
金
ん





すごいわよね
そんな城が
この基山にあつたなんて
町の宝だわ

うん
そうだね
みんなで大切に
していこうね

■コラム4

古代国家体制の整備（国づくりへの道3）

厩戸皇子に始まる国づくり（国家制度）への道のりは、天智（中大兄皇子）-天武（大海人皇子）-持統（麿野讚良皇女）の天皇たちによって、①法律制度、②人びとを把握するための戸籍制度、③法律の番人としての警察（軍団）機構、④徴税制度（生業から切り離された貴族への生活物資供給など）、⑤全てを動かす事務制度としての官僚機構という、今の社会に通じる国家機構を整備するとともに、権力を都（中央）へと集中し、広い地域の人びとを支配する仕組みがつくれていきます（中央集権の国家制度）。

天智4(665)年に築城された我が町の基肄城は、そのような制度の中にあって、文武2(698)年に修治（修理）され、警察（軍団）機構という法の番人としての重要な役割を担わされていきます。

このように基肄城跡は、日本の古代国家の成り立ちを知る上で重要な遺跡として、昭和12年に国の史跡に、そして昭和29年には国の特別史跡に格上げされ、国の宝として私たちの身近に座しています。

時代	西暦	元号年	記事	記載文書
飛鳥時代	672	天武元	壬申の乱おこる。(じんしんのらん) （大友皇子【天智天皇の子】vs大海人皇子【天智天皇の弟、後に天武天皇】） 筑紫大宰栗隈王は、大友皇子からの挙兵依頼を拒否。	日本書紀
	690	持統四	大宰・国司、皆遷任する。【国家制度の整備】	日本書紀
	698	文武二	大宰府、大野・基肄・鞠智三城を修治する。	続日本紀
	701	大宝元	大宝令により官名・位号を改制する。大宝令制大宰府の組織が確立	続日本紀
奈良時代	706	慶雲三	大宰府管内の庸を全免し、かわりに年間19日以内の力役（筑紫之役） が課せられる。	続日本紀
	710		大宰府整備期【基肄城再整備】 ○大宰府政府Ⅱ期施工	
	718	養老二	全免されていた大宰府管内の庸を旧状に復し、諸国と同じく半免とする。	統日本紀
	720	養老四	舍人親王ら『日本書紀』を撰上する。	
平安時代	735頃	天平七頃	四国（筑前・筑後・肥前・肥後）に基肄城の稻穀を班給する。	大宰府木簡
	764	天平宝字八	佐伯今毛人を營城監（えいじょうげん）に任命する。	統日本紀
	765	天平神護元	少式采女朝臣淨庭を修理水城專知官（水城を修理するための専任官）に任命	統日本紀
	774	宝亀五	大宰府、四王院を建てる。	類聚三代格
平安時代	797	延暦十六	菅野真道ら『続日本紀』を撰上する。	
	813	弘仁四	基肄団校尉（軍団の将校で200人を統率）貞弓が、新羅人110人と小値賀島人が戦ったことを伝える。 【基肄団（基肄軍団）：西海道における軍団名が分る唯一の例】 大宰府管内の兵士を減員する。（肥前国：1000人を減ずる）	日本紀略 類聚三代格
	823	弘仁十四	大宰府、主厨・主船を停止し、主城二員を設置する。	類聚三代格

